第７講　武家政権の確立

PART5 鎌倉時代の産業・経済

Chapter 1　地方武士の暮らしと農村

目標
各地の地方武士の生活の基本を知ろう。
鎌倉時代の農業技術の改良について知ろう。

1　地方武士の暮らし

①　地方武士の生活→兵農未分離・一所懸命

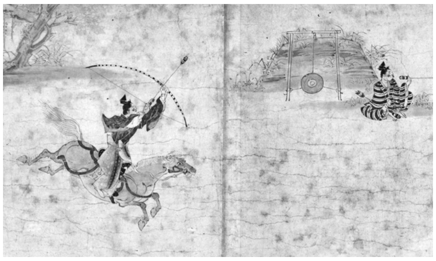
A　所領である荘園・公領内に堀・溝や塀を巡らせた〔1　　　〕を構えて生活

B　現地支配者（地頭や荘官・郷司など）として下地管理・年貢徴収にあたる

C　下人・所従を使い年貢・公事のかからない直営地（佃・門田・正作・用作）も経営

D　地頭＝御家人であれば常に「いざ鎌倉」を想定し
騎射三物（犬追物・笠懸・流鏑馬）や巻狩などで武芸を修練

E　「弓馬の道」「兵の道」「武家のならい」などと呼ばれる武家道徳が形成され
後世の武士道の起源となる
※武勇を重んじ，主人に対する献身や一門・一家の誉れを尊ぶ精神，
恥を知る態度などを特徴とした。


男衾三郎絵巻 笠懸

②農村の構成

A　武士（御家人・非御家人）→侍身分
地頭・荘官・郷司などの現地管理者として
年貢・公事・夫役を徴収・賦課。
※家子・郎党ら従者とともに所領に暮らし，
御家人なら数年に一度，京都大番役や鎌倉番役を務めた。

B　**名主**（もとの田堵）→百姓身分
名田を経営，年貢・公事・夫役を負担。

C　**作人**→百姓身分
名主に加地子（＝小作料）を納入し，名田を請作。

D　下人・所従→奴婢・下人身分
武士の直営地や名主の名田を耕作し，名主に隷属。

E 〔2　　　　　　　〕

武士の**血縁的結合**。一門・一家と称する同族集団の中で,

本家〔宗家〕の**惣領〔家督〕**が分家の**庶子**を統率し,所領を一族で共同して知行した。

※戦時には惣領が指揮官となり軍役を果たし,

平時には惣領が年貢納入や氏神・祖先の祭祀を管理する義務を持った。

あ　幕府と惣領の関係

惣領も庶子も御家人ではあったが，幕府は惣領を通じて一族全体を掌握。

い　所領の〔3　　　　　　　　〕

惣領だけでなく庶子もそれぞれの所領を相続した。

また，婚姻形態は**嫁入婚**が一般的になったが,

女子も財産を分配され，地頭職を引き継ぐ場合もあった。

※嫡子は必ずしも長男とは限らず,

一族を統率する器量・識見のある人物を惣領が選定した。

※相続の「悔い返し（＝決め直し)」が認められるなど，親権は強大だった。

2　鎌倉時代の農村と農業

①農業技術の改良

A　畿内・瀬戸内における麦を裏作とする〔4　　　　　　〕の開始

B　多収穫米である大唐米の導入

C　青草・堆肥にかわる新肥料である〔5　　　　〕・**草木灰**の登場

D　水車や鉄製農具の普及

E　西日本における**牛馬耕**の普及

②商品作物栽培と副業の進展

A　商品作物の栽培

楮・藍・漆・荏胡麻・桑・苧〔苧麻〕など。

B　手工業の発展

農閑期の副業として盛んになる。

まとめ　鎌倉時代の地方武士は兵農未分離で惣領制の下に組織された。
鎌倉時代には二毛作が始まり，新たな肥料が登場して牛馬耕も普及した。

Chapter２　鎌倉時代の産業・経済

目標
座のしくみについて知ろう。
鎌倉時代に貨幣経済が発達した理由は何だろう？

1　鎌倉時代の手工業・商業

①手工業者の登場→農村の副業から都市へ
鍛冶・鋳物師・番匠・紺屋・鎧師などが，各地を渡り歩き仕事をした。

②鉱業の発達
金（陸奥国），銀（対馬国），硫黄（薩摩国・豊後国），
砂鉄（中国地方）などが採掘された。

③商業の発達
A　［1　　　　　　］の発達（月に三度の市＝三斎市）
荘園・公領の中心，交通の要地，寺社の門前などに発達。
年貢米や特産品の交換・売買が行われた。
☆**『一遍上人絵伝』備前国福岡市**など。

B　**行商人**の出現

C　**見世棚〔店棚〕**の登場
京都・奈良・鎌倉などの都市に出現した常設の小売店。

D　［2　　　］の成長
平安時代末期に登場した**商工業者の特権的同業者組合**。室町時代まで発展したが，
新儀商人の出現や戦国大名の楽市令により，独占的・特権的な座は廃止された。
※座衆のうち，大寺社に属した者は神人，皇室に属した者は供御人と呼ばれた。

保護（仕入れ・販売の独占権，営業税・関銭の免除）
→→→→→→→→→→→→→→→→→→→→→→→→→
本所　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　**座衆**
←←←←←←←←←←←←←←←←←←←←←←←←←
座役（労働奉仕，現物納・銭納）

『一遍上人絵伝』備前国福岡市

2 鎌倉時代の経済

鎌倉時代には，交通の発達と宋銭の大量流通により，貨幣経済が発達した。

①**問丸〔問〕**の発生

年貢・商品の中継ぎや委託販売も行う，運送・倉庫業者。各地の港湾で活躍した。

②**為替〔替銭〕**の発生

遠隔地の商取引の貸借決済に手形〔割符〕を使用。

③金融業の発達

A 〔3　　　　〕の発生

都市を中心とする高利貸業者。

B 無尽（講）・頼母子（講）の発生

農村の共済的な相互金融制度。

④荘園領主への**年貢の代銭納**開始

あくまでも地頭・荘官・郷司から荘園領主への場合で，

農民から地方武士へ納入する段階では，依然現物納。

⑤**貨幣の流通**

日宋貿易・日元貿易による〔4　　　　〕の大量流入が，

商業・交通の発達と連動。年貢の銭納化や都市における借上の発達を促進した。

まとめ

商工業者の同業者組合の座は，本所に座役を納めることで特権を受けた。

鎌倉時代には，交通の発達と宋銭の大量流通により貨幣経済が発達した。

第７講　PART５　確認問題

1　御家人が行った騎射三物に**あてはまらないもの**はどれか。

①　巻狩　　②　流鏑馬
③　笠懸　　④　犬追物

2　百姓のうち，名田を経営した身分はどれか。

①　作人　　②　名主
③　荘官　　④　郷司

3　百姓のうち，名田を請作した身分はどれか。

①　下人　　②　所従
③　名主　　④　作人

4　鎌倉時代に新肥料として登場したものの組合せとして正しいのはどれか。

①　刈敷・草木灰　　②　刈敷・青草
③　草木灰・堆肥　　④　青草・堆肥

5　定期市である備前国の福岡市が描かれている絵巻物はどれか。

①　法然上人絵伝　　②　一遍上人絵伝
③　源氏物語絵巻　　④　信貴山縁起絵巻

6 商工業者が結成する同業者組合はどれか。

① 惣　② 借上
③ 座　④ 講

7 年貢・商品の中継ぎや委託販売も行う，運送・倉庫業者はどれか。

① 座　② 借上
③ 行商人　④ 問丸〔問〕

8 鎌倉時代に流通していた中国の銭は，何王朝の時代に発行された銭か。

① 唐　② 宋
③ 明　④ 元

第７講　PART５　確認問題 解答

1 解答：①　巻狩は，御家人が武芸鍛錬と遊興をかねて行った大規模な狩猟のこと。

2 解答：②　**名主**はもとの田堵で，名田を経営して年貢・公事・夫役を負担した。

3 解答：④　**作人**は名主に加地子（＝小作料）を納入し，名田を請作した。①の下人と②の所従は奴婢・隷属身分。

4 解答：①　鎌倉時代，青草・堆肥にかわる新肥料として，**刈敷・草木灰**が登場した。

5 解答：②　『**一遍上人絵伝**』は，時宗の開祖である一遍〔捨聖〕の行状を描いた絵巻。

6 解答：③　**座**は室町時代まで発展したが，新儀商人の出現や戦国大名の楽市令により，独占的・特権的な座は廃止された。②の**借上**は都市を中心とする高利貸業者，④の講は農村の共済的な相互金融制度のこと。

7 解答：④　**問丸〔問〕**は各地の港湾で活躍した。

8 解答：②　鎌倉時代，日宋貿易・日元貿易によって大量に流入した**宋銭**の流通と交通の発達により，貨幣経済が発達した。